

瓦谷山



瓦谷山だより



vol.34

発行日 2017年3月吉日
発行人 (宗) 真光寺 岡本和幸
印刷 現代社
編集 (宗) 真光寺

問い合わせ先
(宗) 真光寺
TEL 0438-75-7414

○お寺HP
<http://www.shinko-ji.jp/>
○上総自然学校HP
<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/>
○お寺ブログ【瓦谷山だより】
<http://shinkoji.cocolog-nifty.com/news/>

ごあいさつ

まもなくやってくる花の季節を楽しみに、十二月から二月にかけ、木こり三昧の毎日を送っています。一昨年から本格的に山仕事に取り組み、今冬も職員総出で山の整備や谷の開墾を行いました。真光寺では年間を通して、樹木葬墓苑を含む境内地や近隣の山を対象に、積極的な里山環境保全活動を行っています。

里山とは、人間が原生林を切り開き、炭や薪として利用したり、農耕に必要な堆肥を作ったり、キノコを栽培したりするためクヌギ、コナラ、サクラなどの落葉樹を植林する一方で、スギやヒノキなどの針葉樹も建築資材として植え、常に下草を刈り、更新伐採を行い、棚田などの農耕地とともに、継続的に利用しながら生活を営んできた土地のことをいいます。したがって人間がかかわらなくなると、里山はその環境を維持していくことができなくなります。高度成長期以来、大規模水田が奨励される中で面積の小さい山間の田は放棄され、エネルギー革命で炭や薪の需要もなくなり、堆肥は化学肥料にとってかわられたため、里山里田は荒廃し、原生林へと戻り始めています。照葉樹林帯に位置する房総半島南部の里山は、シイやクヌギなどの常緑樹が主流の原生林に還ろうとしているのです。

「原生林に戻るのなら環境保全になるのではないか」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、けれどもフクロウやタカ類、トウキョウサンショウウオやアカガエルなどの両生類、トンボやゲンゴロウなどの昆虫、メダカやタナゴ類など淡水魚の多くは、里山環境が破壊されたことにより、絶滅危惧種となつてしまいました。

人間も自然の一部です。農耕が始まった弥生時代以来、生き物たちは人間と共に里山の環境になじんで生きてきたのですが、人間が農耕を離れ、急激に生活スタイルを変えたことにより、生態系のバランスが大きく崩れました。その結果、絶滅の危機に瀕している生き物がいる一方で、当地のよに害獣被害や住環境の荒廃に悩まされる山間農村地域も急激に増えているのです。

私たちは面積にして一町五反、四千五百坪の棚田を復元し、従来の環境に戻す努力を続けています。環境を保全し、里山の生態系を守ることは、こ

の川原井の地に住む人々の住環境の維持にもつながるはずです。そして現代社会において先祖が伝えてくれた環境が残る希少な場所であることが地域の誇りとなっていけば、環境破壊や過疎化の進行に、微力ながらも一石を投じられるのではないのでしょうか。そこにお寺が積極的な里山保全の活動を行う大きな意義があるように思えてなりません。

この活動の一環として樹木葬墓苑を位置づけています。昨秋から正月にかけては、樹木葬墓苑地の剪定作業も行いました。真光寺の樹木葬墓苑地は、疎林の形態をとり、定期的に管理剪定を行い、樹勢をコントロールしています。木は樹種によりそれぞれ成長速度が違っているので、人が切り詰め成長速度を合わせることで、それぞれの木が元気に育つことができます。今後数年おきに強剪定を行ってまいります。

開園当初、樹木葬墓苑地に植えた桜の木の数には、アオハダザクラという種類です。元来台木として使用され、樹齢は短く花期は遅く、小さな花を咲かせます。実は私はこの木を千葉県自生のマメザクラと誤って植えてしまったのです。これを順次他の桜に植えかえていくつもりです。桜といえばソメイヨシノが代表的ですが、昨今、満開のソメイヨシノの中に、花をつけていないボサボサの枝が多くみられることにお気づきでしょうか。これは「天狗巣病」といい、カビの一種が飛散して伝染する病気です。ソメイヨシノは接ぎ木によって生産されるクローン樹なので、この病気の蔓延を止める手段は今のところありません。真光寺では木に登ってほうき状になった枝を切り、拡散を防いでいますが、ソメイヨシノばかりをこれ以上増やすことは、管理上困難と考えています。アオハダザクラの代替樹としては、オオヤマザクラ、オオシマザクラ、エドヒガンザクラ等の山桜系の樹種を植え、境内地全体を吉野山のような、桜の錦織りなす里山にしていきたいと思っています。何卒ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

春のお彼岸も間近です。うらかな陽気の中、面目を一新した真光寺の山へ、ぜひおいでください。皆様のご参詣を心よりお待ちしております。

合 掌

真光寺住職

ご寄進者ご芳名

錦鯉三匹 株式会社権次郎様

ご寄進いただき心より御礼申し上げます。食堂の寄進芳名単にお名前を記し、永く寺録に残させていただきます。

行事報告

◇七日法要（十二月）

十二月は月例供養の後、午後から大掃除を行いました。一同で手分して伽藍を掃除し、とても綺麗になりました。ご協力いただきました皆さま、ありがとうございました。



◇真光寺餅つき

十二月二十八日は山内でお餅をつきました。今年は十升のもち米をつき、伽藍にお供えする鏡餅やのし餅を作りました。お昼にはお参りに来られた方につきたてのお餅を振舞いました。



来山者にもお餅をついてもらいました



親子で餅つき

◇修正会年頭祈禱

一月三日は檀信徒の家内安全、所願成就を祈念しご祈禱しました。今回は初めて大般若転読を行いました、例年とは違った雰囲気となりました。法要後には歌う魔女っ子マジシャン瞳ナ氏をお招きし、素敵マジックを披露していただきました。



大般若を転読する様子



マジックに会場が沸きます

◇七日法要（一月）

一月は授戒式、月例供養の後、仏殿前にて餅つきを行いました。参加者の方々にも餅をついていただき、大変盛り上がりしました。昼食の間はついた餅をみんなで美味しくいただきました。午後からは祈禱法要とお焚き上げを行いました。盛りだくさんな一日となりました。



仏前結婚式のススメ

曹洞宗における仏前結婚式は明治時代に神前結婚式より数年早く始まりました。釈迦牟尼仏に依し、結婚することを奉告して、仏の慈恩を願い、感謝するという趣旨で行われます。仏教の考え方からみれば、夫婦になるということは偶然ではなく、それだけの因縁があつたからです。そうした深い縁を感じるとともに、いまここに自分があるのは、両親をはじめ先祖の心と身体を受け継いでいるのだという感謝の思いを込めます。そして、新しい門出にあつて、生涯を仏の教えに則つて生きていくことを誓うところに、仏前結婚式の意義があります。

真光寺仏前結婚式のご報告

副住職 國生 徹雄

私事ですが、昨年の十一月二十三日、真光寺に於いて、結婚式を挙げました。式師は私の師匠である岡本住職にお勤めをいただき、真光寺檀信徒役員、親族、友人等、総勢五十名近くの方々にご出席いただきました。

当初、私も妻も結婚式を挙げないつもりでいました。その理由はお金がかかるからです。その上、準備は大変そうだし、入籍して二年近く経つのに今更という思いがありました。

しかし、昨年の夏頃、住職に「そういえば、あんたら結婚式はどうするんだ」と聞かれたので、「結婚式はやらないつもりです」と答えました。すると、「大切な人生の節目なのに、そんなことでいいのか？よし、真光寺でやろう！」と言われ、

そこから真光寺史上初かもしれない仏前結婚式に向けての準備が始まりました。

自分が結婚式の主役となるのは当然ながら初めての経験です。友人に聞いたところでは、「決まった流れに沿えばいい」というのですが、確認とした式次第も定まっていないう仏前結婚式に「流れ」などありません。葬儀や法事の次第なら身にしみこんでいる僧侶といえども、結婚式については全く通じていないのが本場のところなのです。

そんなわけで、会場だけは真光寺と決まった中、結婚式の全てのプログラムを自分たちで学び、考へていくという作業から始めました。先輩に聞いたり、調べたりして決定した結婚式のプログラムは次の通りです。

一、来賓親族着席

一、親族紹介

一、式師、新郎新婦入場

一、開式の辞

一、進前献香（しんぜんけんこう）

開式にあたり、御本尊様に式師が香を献じます。

一、啓白文奉読（けいびやくもんほうどく）

式師が本日の結婚の儀執り行う旨奉読し、あわせて新郎新婦二人の将来に幸あらんことを祈願します。

一、洒水灌頂（しやしういかんじよう）

式師が洒水器を取り、新郎新婦に灌頂します。

古代インドの国王戴冠式に倣ったもので、新郎新婦の頭上に水を注ぎ、仏の弟子として身心ともに清らかな姿で、縁を結ぶための儀式です。

一、寿珠授与

式師は寿珠（数珠）を香に薫じ、新郎新婦に授

与します。寿珠は仏教徒の象徴であり、その珠は心の丸みを、その輪は人のつながりの和をあらわしています。

一、指輪交換

新郎新婦がお互いに指輪を交換します。

一、三帰礼文

式 師 自ら仏に帰依し奉る

一同唱和 當に願わくは衆生とともに
大道を体解して無上意を發さん

式 師 自ら法に帰依し奉る

一同唱和 當に願わくは衆生とともに
深く経藏に入りて智慧海の如くならん

式 師 自ら僧に帰依し奉る

一同唱和 當に願わくは衆生とともに
大衆を統理して一切無礙ならん

と、式師について三帰礼文を唱和します。これは仏教徒であることを誓い合う式です。

一、盃事

新郎新婦の三三九度のあと、参列者は式師の合図で一斉に盃をあげ、両家の固めの盃とします。

一、誓約文

新郎新婦が立ち、新郎が代表して今日の喜びと人生の門出にあたつての決意のほどを述べます。

一、式師示訓

式師より新郎新婦にお祝いの言葉を兼ねたおさとしを賜ります。

一、般若心経

式の最後に読経を行います。

一、普回向

一、閉式の辞

一、式師、新郎新婦退場



盃事：なみなみと注がれるお酒…

当日の天気は良くないという予報で心配していましたが、なんとか雨は降らずに記念撮影をすることができました。記念撮影の後は食堂にて真光寺職員も含め、全員でアットホームな雰囲気での祝宴を行いました。

前日に同じ場所で式全体の流れを確認したのですが、いざ本番となり、書院に入ると普段とは全然違った雰囲気、何とも言えない緊張感がありました。雰囲気は飲まれるとよく言ったりしますが、



洒水灌頂：松葉で水を散らします。



式師示訓：住職より人生を幸せに過ごすヒントを貰います。

夫婦だけでなく、友達同士でも、真光寺でいって結ばれているのではないのでしょうか。たとえば、今回の結婚式は真光寺職員の協力がなければ、出来ませんでした。自分達だけでは何も出来ないと感じました。

近年では入籍をするカップルの約半数が結婚式をしないそうです。その理由はお金がかかる、他のことにお金を使いたい、恥ずかしい、準備が大変そうなどです。私自身が当初やらないと思ってた理由と同じでした。

乗り気でない中、鶴の一声でやることになった結婚式でしたが、終えてみれば、仏前結婚式の意味をよく理解し、厳粛な雰囲気や緊張感のある中、仏の前でお誓いをし、式師からおさとしを受ける、その儀式に身を置くことにとても感動しました。

また、何故仏前で式を挙げるのか、その意義を考えることは僧侶として重要なのだと感じました。

仏教の考えからみれば、私と妻が結婚するということはどうやら偶然ではなく、以前から結婚することを因縁づけられていて、その因縁が熟してめでたく結ばれたということになるそうです。結婚する、夫婦になることが因縁であったと言われるれば、お互いのことを尊く、大切な存在であると感じることでしょう。

妻との縁だけではなく、全ての人との縁を大切にしなければならぬことに気づかされた結婚式でした。

あまり知られていない仏前結婚式ですが、この報告を機にたくさんの方に知っていただけたら幸いです。

合掌

「仏前結婚式を検討される方へ」
様々なご要望にお応えしますので、まずはご相談ください。費用がご心配でしたら、誓いの儀式だけであればお気持ち分のお供えで結構です。
新しい人生の門出を真光寺一同、全力で応援いたします。



披露宴もできます



上総自然学校（里山再生活動）

今年の上総自然学校のイベント始めは七草粥づくりでした。山や畑に行き、春の七草（芹・なずな・ごぎょう・はこべら・仏の座・すずな・すずしろ）を自分達で摘んで調理し味わうという内容のイベントです。

しかし、七草が思ったようには見つかりません。複数名が写真付きの資料を片手に探しましたが、仏の座に至っては特定することもできませんでした。また種類によつては、とても小さくまだ食べるには満たないように見えるものがありました。

後日、七草粥について詳しく調べたところ、定着したのは江戸時代であることがわかりました。その頃は旧暦でしたので、現在より約一ヶ月先に行われていたようです。その時期であれば日照時間もわずかですが長くなり、七草も旬を迎えていたであろうと合点がきました。

春からはお米作りや自然観察会などの様々なイベントがございます。皆様ふるってご参加ください。（糸田）



渋柿を採ってきて干し柿作り。この日は全部で360個。ただひたすら剥き続けます。



椎茸の菌打ち。原木にドリルで穴を開け、種駒を打ち込んでいきます。



稲わらをお飾り作り。稲わらを縫う所からご指導いただきます。講師は近所のお檀家さんです。なかなか上手にできました。



イベント日程

☆『お花見トレッキング』
・三月二十九日（水） 十三時半～十六時

△『畦塗&稲の苗作り』
・四月十五日（土） 十時～十六時
※各日帰り

☆『巨木巡りトレッキング』
・四月二十三日（日） 十三時～十六時

▲『サツマイモ植え&レンゲトレッキング』
・五月三日（水） 十三時～十六時

△『田植え』
・五月十三日（土） 十時～十六時
・十四日（日） ※各日帰り

◎『田植えとホタル観賞』×二食付（夕・朝）
・六月 三日（土） 十三時半～翌十一時
・四日（日） ※一泊二日

☆『田んぼの水路の生物観察』
・六月四日（日） 十時～十三時

●『草取り&ホタル観賞』
・六月十日（土） 十一時～二十時
・二十四日（土） ※各日帰り

☆『草取り&ホタル観賞』×二食付（夕・朝）
・六月十七日（土） 十一時～翌十二時
・十八日（日） ※一泊二日

◇『イトトンボ観察会』
・七月一日（土） 九時～十一時半

○『里山の昆虫観察』×二食付（夕・朝）
・八月二日（土） 十六時～翌十一時
・三日（日） ※一泊二日

お米各種販売しております。

三月より古代米の販売を開始いたしました。今年も黒・赤・緑の紫の四種類の色米と、つきみもちの玄米に色米四種をブレンドした「色々米」をご用意しております。「こしひかり」「つきみもち」も引き続き販売しております。数に限りがございますので是非お早めにお買い求めください。

【農薬】いもち病予防の種子消毒のみ
【肥料】有機肥料
【精米】一時間かけて低温で自家精米

こしひかり（うるち米）

【価格】二キロまで 玄米 五百円
二キロまで 白米 五百五十円
三キロ以上 玄米 四百五十円
三キロ以上 白米 五百円
kgkgkgkgkg

つきみもち（もち米）

【価格】少量パック（三合） 三百円
二キロまで 五百五十円
三キロ以上 五百円
kgkg

古代米

【価格】黒米・赤米・緑米・紫米 三百円
色々米（五種ブレンド） 六百円
円／百五十グラム
円／三百グラム

☆玄米の放射線測定結果（検出限界値 1ベクレル/kg）
ヨウ素・セシウム134・セシウム137検出せず（五年連続）

☆玄米の残留農薬検査の結果（自主検査）
二百五十項目の農薬 検出せず（五年連続）

【ご注文方法】

①氏名②住所③電話番号④白米か玄米⑤数量（二キログラム以上一キロ単位）を明記し、ファックス・電話・メールにてお申込みください。（連絡先は最後のページに記載あり）

☆収益金は「上総自然学校」の里山再生生活費に充当します。

里山の生物

カワセミ



ブッポウソウ目カワセミ科カワセミ属

全長16～20cm、体重19～40g。青色の羽にオレンジ色のお腹が大変美しい鳥。体はスズメ程の大きさで、長い嘴を持つ。雌だけ下の嘴が赤い。羽の青色は色素によるものではなく、羽毛にある微細構造により光の加減で青く見える構造色である。山間部から平野部に広く生息する。国内では留鳥である。河川、池、湖、湿地などで採食する。水中に飛び込み魚類、甲殻類や水生昆虫等の小動物等を捕食する。非繁殖期は縄張り意識が強く、1羽で行動する。繁殖期は3～8月、年に2回繁殖することもある。崖や急斜面に横穴を掘り巣とする。1960年代頃から河川、用水路の改修、護岸工事により、採食地や営巣地が減少している。

千葉県レッドリスト・C
（要保護生物）



もち米の「つきみもち（品種名）」はとても甘いです。‘色々米’は古代米4種ともち玄米をブレンドしています。



赤米はうるち種。黒、紫、緑はもち種です。

〈参加費〉

各イベント名の上にある記号です。

- ◎大人六千円／小学生三千円
- 大人四千円／小学生二千円
- 大人三千円／小学生千五百円
- △大人二千円／小学生千円
- ▲大人千円／小学生五百円
- ☆一人五百円

〈申込み方法〉

参加される方の
①氏名②住所③連絡先④生年月日⑤血液型⑥緊急連絡先（ご本人様が怪我をした時などの連絡先）を明記の上、メール・ファックス・電話でお申込みください。（連絡先は最後のページに記載があります）

宗門儀礼について

副住職 國生徹雄

前回までの瓦谷山だよりでは「墓地」や「葬送」について住職が執筆してまいりました。今回からは「宗門儀礼」について、副住職の國生徹雄が執筆します。最初のテーマは「祈祷」についてです。よろしく願います。

「祈祷」

祈祷とは何か？

祈祷とは、神や仏などの崇拜対象と信者との交流の一形態をいい、声祷（声に出す祈祷）と默祷（声に出さない祈祷）に大別されます。元来、個人が自由に行う宗教的行為ですが、集団的にも行われます。「御祈祷」という場合は、いわゆる現世利益を求める行為を指し、財富の獲得、安産・子育て、病氣平癒、家内安全、厄災回避など世俗的な願望を祈り、神聖視する対象と何らかの意思疎通を図ろうとする儀礼です。

平安仏教、天台・真言などで顕著にみられ、形式は祈祷者・祈祷師（僧侶・神官）などが、呪文や経典・教本の読誦、または願文などを唱えます。

祈祷の意義

祈祷の意義としては、主に二つが考えられます。一つ目は御祈祷を受けることにより、不安が解消され、生活が充実したものになるということです。例えば、厄年の人が「なにか悪いことが起きたら

どうしよう」と不安に生活するよりも、「御祈祷をしてもらったんだから大丈夫。神様や仏様が見守って下さる。」と思えば生活するのでは、後者の方が自分本来の、もしくは自分の持っている以上のパフォーマンスを発揮できるのではないのでしょうか。

そして二つ目は、そもそもご祈祷は「感謝」を基礎にしているということです。ご祈祷というと神や仏にお願い事をするものだと思えられがちですが、本来ご祈祷は「感謝」が先立っているものなのです。つまり、厄払いでいえば、「厄年まで無事生きられたことを感謝する」ことが第一で、その次に「厄年を無事乗り越えられますように」と祈るのです。

願い事が叶わなかったらなくなってしまう、取引のような信仰は真の信仰ではありません。本当の信仰とは、今我が身あることを感謝することです。恨み言ばかりの人生は有意義なものにはなりません。自分に足りないものを数えるのではなく、自分が今持っているものを数えるきつかにして、「あれもない、これもない」と嘆いたり不安になったりするのはなく、「あれも持っている、これも持っている」と満足し安心すること。それもご祈祷の意義の一つではないかと思えます。

宗門の祈祷の歴史と位置づけ

禅宗は元々坐禅修行に基づく自己の究明が本分でしたが、時代の流れとともに、葬儀（死者儀礼）や授戒、そして祈祷が行われるようになり、祈祷は教団展開の重要な要素の一つとなっていきました。

宗門祈祷寺院について（祈祷で有名な曹洞宗寺院の紹介）

①大雄山最乗寺

峨山五哲である通幻寂霊門下の了庵慧明によって開かれ、東国における通幻派の拠点でした。通幻門下は、各地で公共事業を行いました。最乗寺はこの地で土木工事を行った了庵法嗣の妙覚道了（道了尊）を祀っています。

②可睡斎（秋葉三尺坊大権現）

秋葉山の山岳信仰と修験道が融合した神仏習合の神、秋葉三尺坊大権現を祀っています。また、観音菩薩を本地仏とし、七十五の眷属を従えています。神仏分離・廃仏毀釈が行われる以前は、遠州大登山秋葉寺から勧請された全国の秋葉社、秋葉宮で祀られていました。

③豊川閣妙厳寺（豊川稻荷）

境内に祀られる鎮守の稻荷（吒枳尼天）が有名なため、一般には「豊川稻荷」の名で広く知られています。豊川稻荷は神社ではなく寺院ですが、商売繁盛の神として知られ、境内の参道には鳥居が立っています。日本三大稻荷の一つで、全国の稻荷神社は京都の伏見神社を総本社としています。信仰対象は「稻荷」と通称されますが、稻荷神そのものではなく、吒枳尼天なのです。

※吒枳尼天：ヒンドゥー教の女鬼（半女神）。梵語のダーキニーを音訳。枳尼天・吒天とも言う。一般に白狐に乗る天女の姿。中国の仏典では「天」が付くことはなく茶枳尼とのみ記される。日本の

茶枳尼天は、稻荷信仰と習合し、寺院の鎮守稻荷の多くは茶枳尼天を祀っています。

④山形善寶寺

前身を龍華寺といい、『今昔物語集』に「出羽の国の龍華寺の妙達和尚」の話があります。

嘉吉・文安年間（一四四一〜一四四九）に太年浄椿が再興し、善寶寺と改めました。縁起には、常に龍神説話が伴い、山号の龍沢山も浄椿が出現した二龍に授戒した故事に基づいています。また、寺内の龍王殿に、龍王・龍女の二神を祀っています。

江戸時代、北回り航路の発展と共に善宝寺の信仰は広まりました。明治時代、第三三世月円禅山大和尚の代に、漁業関係者の発願により「魚鱗一切の供養」の五重塔が建立されました。

⑤巢鴨高岩寺（とげぬき地蔵）

おばあちゃんの原宿

江戸時代、武士の田付又四郎の妻が病に苦しみ、死に瀕し、夢枕に立った地蔵菩薩のお告げに従い、地蔵の姿を印じた紙一万枚を川に流すと、その効験があつて病が回復したといわれます。これが寺で配布する「御影」の始まりとされています。

毛利家の女中が針を誤飲した際、地蔵菩薩の御影を飲み込んだ所、針を吐き出すことができ、吐き出した御影に針が刺さっていたという伝承もあり、「とげぬき地蔵」の通称はこれに由来します。

そこから他の病気の治癒改善にも利益があるとされ、その利益を求めて高齢者を中心に多くの方が参拝に訪れています。

真光寺のご祈禱

真光寺でも一月一日から三日までご祈禱が行われています。十五分刻みで一組ごとに行います。

一日は特にご祈禱に来られる方が多く、十座連続でご祈禱することもありました。二時間以上ぶつ続けでひたすらお経を唱えるのです。普段ご供養でお経を唱える時は、ゆつくりと、恭しく唱えるのですが、ご祈禱でお経を唱える時は大きな声で流れるように唱えます。ですから、二時間以上もぶつ続けでお経を唱えると喉がカラカラで痛くなってしまうのです。しかし、ゆつくり読んだのはご祈禱になりませんからとにかくひたすら一生懸命唱えました。途中で「ああ、疲れたな、もう少し声を抑えてお経を唱えようかな。」と自分に甘えなくなる気持ちも起こりました。しかし、ご祈禱に来ている方達にしてみれば、今年が良い一年になるようにと願う、一年に一度の大事な儀礼です。

ご祈禱に来る方の中には、終始目を瞑り祈る人や、お経を聞いて目に涙を浮かべる人もいます。それを見て私は、みんないろいろな思いをもってこのお寺に来ているんだと実感させられました。「家族が病気で一日でも早く治って欲しい」「大学や高校受験を控えていて、どうしても合格したい」「妊娠して無事に生まれてきてほしい」僧侶が祈禱を行うに当たってはそういった様々な思いに共感して祈禱を勤めなければならぬのだと思います。

また、ご祈禱の時は木魚ではなく、太鼓を叩きます。リズムをつけながら勢いよく叩くのは理由があつて、それは祈禱を行う僧侶の役割に関係

しています。その時の僧侶の役目は願い事をする祈願者が安心を得るためのお手伝いをする事なのです。祈願者の持つている不安を解消するために僧侶は大きな声で読経をし、太鼓も大きな音が出るように叩くのです。大きな太鼓の音を鳴らすそして、それによってパワーアップした祈願者の願いを仏様に届けることが役割なのであります。葬式仏教と揶揄される時代、僧侶の役割は死者供養だけだと捉えられがちですが、生きている者の不安を払い、心の安らぎを得られるように勤めることも大切な役割だと思っています。

一周忌	平成二十八年
三回忌	平成二十七年
七回忌	平成二十三年
十三回忌	平成十七年
十七回忌	平成十三年
二十三回忌	平成七年
二十七回忌	平成三年
三十三回忌	昭和六十年
三十七回忌	昭和五十六年
五十回忌	昭和四十二年
百回忌	大正七年

平成 29 年 10 月 15 日～ 17 日

みんなで行こう！
真光寺の団参旅行

曹洞宗・正法寺参拝と気仙沼・松島の旅



毛越寺

東日本大震災
七回忌法要



国宝 瑞巖寺



松島

今回の団参旅行は平泉の名刹めぐりと参拝の旅です。毛越寺・中尊寺は世界遺産。一度は訪れたい場所です。正法寺は第三の本山と呼ばれる曹洞宗のルーツ。日本一の茅葺屋根を見学します。途中気仙沼

世界遺産 THE WORLD HERITAGE



中尊寺



SHOBOji

にて当山に縁のある寺「清涼院」を訪ね、東日本大震災の七回忌法要を修行します。平泉の絢爛豪華な理想郷からはじまり復興の現在と日本の今昔を縦断する旅。是非ご参加ください。

行 事 予 定

真光寺と駅、バスターミナル間の送迎もありますのでご希望の方は裏表紙をご参照ください。

仏像彫刻体験教室 《どなたでも参加できます》

日時：毎月第 1・第 3 水曜日
13 時 30 分～ 16 時 30 分
費用：3,500 円 / 1 回参加
場所：真光寺（参加者が 3 名以上で開催）
仏師の先生にご指導頂き仏像を彫っていきます。初めての方でも大丈夫です。それぞれの方に応じたペースで、取り組みます。 ※要予約

精進料理と聖典講読の会 《どなたでも参加できます》

日時：1 月 25 日（水） 4 月 26 日（水）
2 月 22 日（水） 5 月 31 日（水）
3 月 29 日（水） 6 月 28 日（水）
午前 11 時～午後 2 時 30 分
費用：3,000 円 昼食付（精進料理）
場所：真光寺
住職による仏教解説の後、一緒に食事をして、午後は坐禅や写経をいたします。 ※要予約



坐禅会 《どなたでも参加できます》

日時：毎月第 2・第 4 土曜日
15 時～ 16 時 30 分
坐禅初心者の方もやさしくご指導いたしますので気軽にご参加ください。坐禅が出来ない方も椅子坐禅で無理がないように参加できます。休憩をはさんで 2 回坐禅をくみます。終了後は、僧侶と一緒に茶話会もごさいます。

※初めて坐禅をされる方は、簡単な説明を致しますので 14 時 30 分までにお起こしください。



親子で体験 坐禅・写経会

《どなたでも参加できます》

日時：毎月第 4 日曜日
15 時～ 16 時（参加費 300 円程度）

親子で参加の坐禅と写経会です。心を養い、集中力を高めます。お気軽にご参加下さい。



行事予定

真光寺と駅、バスターミナル間の送迎もありますのでご希望の方は裏表紙をご参照ください。

山門春彼岸法要 《檀信徒》

日時：3月19日（日）14時より
春のお彼岸供養を行います。法要後には余興を予定しています。

花まつり法要・檀信徒総会 《檀信徒》

日時：4月2日（日）11時より
お釈迦様の誕生をお祝いします。法要後に檀信徒総会を行います。

紫陽花の会 《どなたでも参加できます》

日時：3月23日（木） | 6月22日（木）
4月20日（木） | 7月20日（木）
5月18日（木） |

午前11時より午後2時半頃
費用：1,000円 昼食付（精進カレー）
境内や樹木葬墓地の植栽管理にご協力をいただく会です。花咲く寺を目指しております。是非ご参加下さい！昼食の精進カレーも大好評です。
※要予約
※送迎有り（次項午前の時間）

戒名を考える会 《縁の会会員 特に未授戒の方》

日時：5月29日（木） 午前11時より午後2時半頃
費用：3,000円（昼食付）
定員：20名
戒名を考えることは、人生を振り返ることです。午前中は戒名にまつわる仏教知識を学び、昼食に精進料理を頂きます。午後は住職指導のもと、実際に戒名を考えます。考えた戒名は後日の授戒式にて正式に住職よりお授けし、位牌に刻銘の上、観音堂にご安置します。
※要予約
※持ち物：漢和辞典

七日法要 《縁の会会員》

日時：3月7日（火） 11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
4月8日（土） 11時より授戒式・月例供養、昼食（お弁当）午後は花まつり法要と植樹祭
5月7日（日） 11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
6月7日（水） 11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
7月7日（金） 11時より授戒式・月例供養、昼食（お弁当）午後は7月盆施食法要
8月 11時より施食法要（午前の部）、午後1時半より施食法要（午後の部）
7月、8月の施食法要詳細につきましては次号VOL.35（6月発行）にてご案内致します
※要予約 ※午前、午後のおみの出席もできます。

ご詠歌練習日 《どなたでも参加できます》

3月 14日・28日 | 5月 9日・23日
4月 11日・25日 | 6月 13日・27日
時間 19時半より（5月以降は20時より）
※ご詠歌はどなたでもご参加できます。
お気軽に問い合わせください。

真光寺囲碁の会 《どなたでも参加できます》

日時：6月15日（木）～16日（金）
14時から翌日13時30分解散
費用：8,000円 1泊3食
場所：真光寺
桜の咲く真光寺で囲碁をうちませんか？初心者から日本碁院六段の方までいろいろなレベルの方がいらっしゃいますので是非この機会に挑戦してみてください。日帰りのご参加も可能ですのでお問い合わせください。
※要予約

縁の会春彼岸法会 《縁の会会員》

日時：3月20日（月） 11時より
縁の会合同での春彼岸法要を行います。
午後は葬儀社の方を招いて葬儀セミナーを開催いたします。 弁当付。
※要予約
※午前のみ、午後のおみの出席もできます。

－葬儀セミナー開催のお知らせ－



昨年の11月3日に開催された縁の会総会におきまして、アジアの子供たちの支援のため、募金活動を実施いたしました。ご協力いただきました皆さまに心から厚くお礼申し上げます。また、シャンティ国際ボランティア会様より真光寺に感謝状が贈られましたので、ご報告いたします。

会 場	真光寺
日 付	3月20日（月・祝）
時 間	13：30～15：00

要事前申し込み
春彼岸法要の後開催
参加費は無料です

葬儀セミナーはご好評で、三回目の開催となりました。

シンプルに家族だけで。親族が皆集まって。など、葬儀についてのご希望やイメージも様々です。真光寺での葬儀を中心に、実際にどのような形の葬儀を執り行うことができるのか、費用や段取りなど、詳しくご説明いたします。ご自宅近くの会場での葬儀についてもご相談承ります。

葬儀についてなんとなく不安に感じている方やご自身の希望をうまくご家庭に伝えたい方は、是非このセミナーにご参加ください。

送迎のご案内【午前】

□電車の方

- ・ 上り電車の方（君津発千葉行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時07分着
- ・ 下り電車の方（快速君津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時10分着

□バスの方

【土日祝】

- ・ 品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・ 横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・ 川崎発8時55分→袖ヶ浦BT9時57分着
- ・ 新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- ・ 東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時03分着

【平日】

- ・ 品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・ 横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・ 川崎発8時55分→袖ヶ浦BT9時57分着
- ・ 新宿発9時00分→袖ヶ浦BT9時58分着
- ・ 東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時03分着

送迎のご案内【午後】

□電車の方

- ・ 上り電車の方（快速逗子行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」13時06分着
- ・ 下り電車の方（千葉駅発木更津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」13時02分着

□バスの方

【土日祝】

- ・ 品川発12時00分→袖ヶ浦BT12時52分着
- ・ 横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・ 川崎発11時45分→袖ヶ浦BT12時47分着
- ・ 新宿発11時40分→袖ヶ浦BT12時45分着
- ・ 東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時38分着

【平日】

- ・ 品川発11時50分→袖ヶ浦BT12時42分着
- ・ 横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・ 川崎発11時45分→袖ヶ浦BT12時47分着
- ・ 新宿発11時40分→袖ヶ浦BT12時45分着
- ・ 東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時38分着

各種お申込み連絡先

真光寺 〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634

TEL 0438-75-7414 (代表) TEL 0438-75-7365 (縁の会事務局) FAX 0438-75-7630

e-mail ennokai@shinko-ji.jp (縁の会)

satoyama@shinko-ji.jp (上総自然学校)